

2025年12月11日(木)

2025 年 11 月 27 日 第 3650 回

出席報告	● 現在会員	142名	例会修正出席率	10 月 16 日
	● 出席者	64名		● メークアップ 20名
	● 欠席者	63名		● 欠席者 27名
	● 出席免除者欠席	15名		● 修正出席率 80.6%
	● 今回例会出席率	50.4%		

例会報告

ビジター紹介

本日の例会に彦根 RC「名門 RC を訪ねる会」より西村 昭パスト会長はじめ 5 名の皆様、福井北 RC「クラブ研修委員会」より光野 稔委員長はじめ 5 名の皆様、計 10 名の会員様がお越しくださいました。彦根 RC 西村パスト会長並びに福井北 RC 光野委員長よりひとと言ひご挨拶をいただきました。



彦根 RC 西村 昭パスト会長

私共の同好会で「名門ロータリークラブを訪れる会」というのも作っております。大体 1 年に 2 回くらい、名古屋、京都、横浜、広島という順番で、2 つ程のクラブに伺わせていただいております。

彦根 RC と
バナー交換彦根 RC
西村 昭パスト会長・瀧沢 隆司パスト会長
青木 竺峰パスト会長・後藤 元一会員・和田 一繁幹事

福井北 RC 光野 稔クラブ研修委員長

福井北ロータリークラブで「クラブ研修委員長」を仰せつかっております、光野 稔です。

今年度のクラブ研修委員会の活動として挙げたのが、「名クラブ」を拝見しようというものです。

福井市内の各ロータリークラブの皆様のところへお邪魔をさせていただいて、他のクラブの皆様のいろんな活動ぶりや、ロータリアンとして、いろんな勉強をさせていただきたいなということで、今回お邪魔させて頂きました。

福井北ロータリークラブは皆様ご存知のように、親クラブが福井ロータリーさんですので、非常に私どもには縁深く、今日は様々なことを勉強させていただいて、これから福井北ロータリークラブの活動に役立たせていただきたいなという風に思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

福井北 RC
光野 稔委員長・山浦 節櫻会員・朝日 一男会員
北大宅 勉会員・嶋田 美由紀会員

委員会報告



国際奉仕委員会 白江 文夫 委員長

台北国際大会のご案内をさせていただきます。現在 22 名の方に、参加表明をいただいております。その上で、大会に参加するためには、My Rotary から各自で登録していただくという作業が必要になります。登録に際して難しい点、わからない点がある方は、本日の例会後も登録会を会場の外で行いますので、ご不明の方は少しだけお残りいただいて、一緒に登録をしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

キャリア教育推進委員会
生田 健太郎 副委員長

12 月 11 日（木）に開催します啓新高校にて行います「キャリア教育講座」について、10 名の会員の企業様より、参加表明いただきました。ありがとうございます。

当日は、例会後の開催となりますので、ぜひご準備よろしくをお願いいたします。

会員卓話



高村 昌裕 会員

足羽福祉会は、1967 年に北陸陽気園という知的障害児の入所施設が資金難、運営難の際に、私の祖父の高村 利雄が地元の名士である福井新聞社社長の吉田 弥様に助けをお願いしたことで始まりました。

ヨーロッパ視察を通してノーマライゼーションのもと「赤ちゃんからお年寄りまで誰もが安心して暮らせる福祉」をめざして保育所、障がい者の施設、2 つ、高齢者の介護施設 2 つを開設しました。

行政の下請けにとどまらず、県下初のデイサービスや障害児とその家族の海外旅行など、先駆的な取り組みを行いました。

平成に入り、私の父が 3 代目の理事長となりました。社会福祉制度が措置から契約に転換した時代において、父は施設改修を進めながら、利用者様から選ばれる施設となるよう接遇研修やサービスの第三者評価制度受審をとおしてサービスの質向上に向けた取組みに力を注ぎました。

父は福井ロータリークラブにて、皆さまにも大変お世話になり、創立 75 周年式典においても、物故者に名を刻んでいただいたスライドを見て、大変うれしく思いました。ありがとうございました。

そして私は、平成 22 年度より 5 代目の理事長になりました。

私は学生時代、とにかく親元を離れたかったので、東京の大学に行きましたが、大学を休学して、フランスに語学留学をしました。アジア人として差別を受けた経験や、ベルリンの壁崩壊後の東欧をヒッチハイクなどしながら旅行し、忘れられない貴重な経験をたくさんしました。大学に戻ってからはアルバイトとボランティアに明け暮れ、就職は横浜市中、生活保護のケースワーカーとなり、そこで妻と出会い、結婚しました。父が倒れ、福井に戻ることを決めました。

足羽福祉会に入り、障がいのある成人の入所施設で現場職員として働き始めましたが、大人数の利用者が、一つの建物の中で相部屋で暮らしていて、プライバシーもなく、「自分だったら、こんなところで一生暮らすことは嫌だ」と感じたことから、地域で自分らしく暮らせるよう、地域に小さな事業所を少しずつ展開し、現在 22 事業所、38 事業まで増え、職員数も 542 名、事業収益は約 31 億円まで増えました。また法人単位の経営体をして推し進められるよう本部機能を強化し、法人内託児所を設置するなどし、子育て世代の支援策を充実させました。

私たちの目標は誰もが安心して暮らせる共生社会をめざすことにあり、近年、法人のパーパスを定義し、「だれ一人取り残すことなく、途切れない支援を行い、地域社会から生きづらさをなくす」としました。またビジョンは「共に生きている。それがふつうの世の中に」としました。SDGs も福祉推進、地域社会の課題解決、労働環境改善といった私たちの事業そのものとの親和性が高く、ただ事業所としてたくさんの方を支える中で地球環境に負荷を与えていることも事実なので、その改善に力を注いでいます。

地域で展開している福祉事業の他、「足羽川ふれあいマラソン」をボランティア育成事業として取り組んで 12 年目となります。別の団体が 30 年続けてきたのですが、運営困難となった時にご縁があって、引き継がせていただきました。行政の補助はまったくありませんが、たくさんのボランティアと企業団体からの協賛金等に支えてもらって、規模は小さいながらアットホームな大会をめざし取り組んでいます。今年は、江守会長や玉木パスト会長の企業からもたくさんお力添えをいただきました。またハーフマラソンの折り返し地点では、清川会員が先頭に立って、ランナーのゼッケン番号から名前を探して、名前でランナーを呼んで鼓舞する、名付けて「キヨカワコーナー」も設置され、ランナーからも好評でした。中高生のボランティアの一生懸命応援してくれる姿も素晴らしく、今年の大会は現在、ランナーの大会評価サイトでも 87.9 点と上位のランク付けをされるほどになりました。



最後に法人の作った TVCM を見ていただきますが、これは新型コロナのパンデミックが起きた際、私たち福祉業界もその対応で疲弊感、絶望感が高まり、福祉の仕事に未来が感じられないほどのダメージ感が受け、現在も人材不足が顕著に進んで大変深刻な状態でもあります。そんな中でも踏ん張る世の中の福祉従事者に込めたメッセージを込めて「福祉は勇敢だ」という言葉を加えました。

本日は、このような機会を与えてくださりありがとうございました。